

## 第1回 小中連携懇談会実施要領

平成27年6月19日

小中連携推進委員会

(1) ねらい 小・中学校の教職員で児童生徒の現状等を情報交換して相互理解を深めるとともに、小中共通の課題を明らかにして、今後の学習指導・生活指導の改善に生かしていく。

(2) 日 時 平成27年7月7日(火) 15:40~16:35

(3) 場 所 神居小学校 ランチルーム・・・全体会(含 オリエンテーション)  
図書室, 6年1・2組, 3年1・2組・・・グループ懇談会

(4) 会の流れ 司会：岸(中学校), 有田(小学校)

- ①小学校長あいさつ
- ②オリエンテーション(日程, グループ懇談会の場所の確認)
- ③各教室でグループ懇談会<30~35分>…各グループ共通の話題で話し合う
- ④グループで話し合われた内容の交流, 質疑応答<10分程度>
- ⑤中学校長あいさつ

(5) グループ懇談会の流れ(進行：グループ司会者) 15:45~16:20

- (1) お互いに自己紹介(全員, ネームの着用をお願いします)
- (2) 児童・生徒の実態交流と指導について, 意見交換
  - ① 学習指導に関わって…授業参観を通しての感想, 基礎・基本の定着の様子, 学習に対する姿勢と学習規律について
  - ② 生活指導に関わって…生徒指導上で気になること, 小中学校それぞれで身に付けさせたい生活習慣, 家庭との連携について

(6) グループの編成について

◇特別支援教育グループを含め, 5グループに分かれ協議を行う。

- ・通常学級等 小中で30名前後 → 4グループ(ランダムに編成, 7~8名)
- ・特別支援学級 小中で10名前後 → 1グループ

## 【グループ編成と会場】

### < Aグループ > 7名

会場	所属	氏名(担当学年)	役割
1階図書室	小	奥野 清隆(2年)	
	小	鈴木 宏始(3年)	記録
	小	末次加寿子(6年)	
	小	有田 隆志(教務)	
	中	広瀬 正明(1年)	司会
	中	志賀裕美子(2年)	
	中	今崎 彰彦(3年)	

### < Dグループ > 7名

会場	所属	氏名(担当学年)	役割
1階6年1組	小	森田亜由実(2年)	
	小	今川 成人(3年)	司会
	小	古川 馨(5年)	
	中	高田 勇作(1年)	記録
	中	對馬 紀一(2年)	
	中	澁谷 朋美(3年)	
	中	柴田 雄一(3年)	

### < Bグループ > 8名

会場	所属	氏名(担当学年)	役割
2階3年1組	小	河野 光彦(1年)	司会
	小	谷口 彩(4年)	
	小	相澤 隼(5年)	
	小	相馬 典子(TT)	
	中	竹久 弘幸(1年)	
	中	田中 秀平(2年)	記録
	中	中尾 綾香(2年)	
	中	岩浪 貴子(3年)	

### < Cグループ > 8名

会場	所属	氏名(担当学年)	役割
2階3年2組	小	河野 翼(1年)	記録
	小	田宮 有子(4年)	
	小	柴田 忍(6年)	
	小	阿部 博司(生指)	
	中	吉田 祥子(1年)	
	中	岸 和宏(2年)	
	中	塩田 靖(3年)	
	中	藤井 宏二(3年)	司会

### < Eグループ(特別支援) > 10名

会場	所属	氏名(担当学年)	役割	所属	氏名(担当学年)	役割	
1階6年2組	小	松倉いづみ(知的)	記録	中	上林 美佳	司会	
	小	畠山 洋美(病弱)		中	末永 容子		
	小	富田 広昭(情緒)					
	小	金田 昌枝(情緒)	記録				
	小	才川 美香(情緒)					
	小	伊山 学(情緒)					
	中	山田 幸子					
	中	小林 昌史					

## Aグループ 司会：広瀬(中) 記録：鈴木(小)

### ◎学習指導に関わって

- ・ 中学校で、問題の答え合わせを隣同士の生徒がプリント等を交換して行うが、明らかな誤答に丸を付けてしまう子がいる。小学校の時から、学習活動や作業を的確に行うことができるよう指導していかなければならない。また、自分の書いた文章を見直して誤りを直す習慣も身に付いているとはいえない。
- ・ 語彙力に乏しく、少し難しい言葉になると分からなくなる生徒も多い。新聞を読まず、ニュース番組も見ないので、時事問題に疎い。家庭環境に左右されることだが…。
- ・ 小学校1年生相手でも教師は平易な言葉ばかりを使うのではなく、低学年のうちから多少難しい言葉を使いながら語彙数を増やしていくことも必要になってくる。

### ◎生活指導に関わって

- ・ 中学校としては、年々「良い子」が集まってくる印象。やらなければならないことに対して、しっかり取り組む子が多い。反面、いつもきちんとしてやっている子が集団の中に入ると、雰囲気流されてやらなくなるという場面も見られる。
- ・ 教師と生徒の関係では、言葉づかいなどでけじめがない部分もある。友達に接するのと同じような感覚で先生に接している子がいる。きちんとしたけじめが必要ではないか。
- ・ 知っている先生には挨拶するが、関わりの薄い先生やお客さんに対する挨拶ができていない。小中共通の課題である。日常的に、指導を粘り強く継続していく必要がある。

## Bグループ 司会：河野(小) 記録：田中(中)

### ◎学習指導に関わって(授業参観交流を中心に)

- ・ 理科では小6と中2の学習内容(人や動物の体のつくりと働き)がリンクしていた。中学校で授業の様子を撮影してそれを小学生に紹介するなど、連携を図ることも可能かも？
- ・ 数学の授業を参観して、教科書の厚さにびっくりした。テスト前のプリント学習では、男女の差異なく、一生懸命取り組んでいた。
- ・ 中3体育の走り高跳びで見られたすごい姿を小学生にも見せたらいいと思った。
- ・ 中1音楽では、問題解決的な学習を通して生徒の意欲を高めようと工夫していた。また、音楽といえども、覚えることがたくさんあると思った。
- ・ 今回の取組のように、小・中学校の先生が互いに授業を見合い、理解を深めることが重要。

### ◎生活指導に関わって

- ・ 不登校や登校しぶりへの対応では、保護者との連携が必要となってくる。小・中学校で、当事者の兄弟姉妹など家庭に関わる情報を交換する中で有効な手立てが見付かるかもしれない。



**Cグループ** 司会：藤井(中) 記録：河野(小)

◎学習指導に関わって(授業参観交流を中心に)

〈小学校の授業を参観して〉

- ・小学生の話聞く態度がいい。
- ・1時間で一つの課題に取り組み、先生と児童のやり取り(キャッチボール)があって、丁寧な授業だった。
- ・専門ではない教科を教える難しさがあるのではないかと感じた。

〈中学校の授業を参観して〉

- ・卒業していった子どもたちのことが気になっていたもので、様子が見られてよかった。
- ・中学校に行って、ノートに書く字が上手になっている。
- ・(質問)ノートの罫線が変わって戸惑う子どもはいないのか?→ほとんどいない。

〈小中学校のテストの違い〉

- ・中学校のテストの方が、知識・技能の定着を前提とした問題が多いと感じた。暗記しなければいけない事柄が多いことにギャップを感じているようである。

◎生活指導に関わって

〈中学校の様子〉

- ・学校のトイレが古いので、たまり場にならない。生徒同士、休み時間に廊下で交流することが多い。他の教室に行くことは禁止しており、生徒も守っている。学校のきまりや約束を守って生活している生徒が多く、学校生活も落ち着いてきている。

〈小学校の様子〉

- ・最近、トイレでのいたずらがあるので指導しているが、比較的落ち着いている。

〈中1ギャップの一例として〉

- ・上靴のひもを結べず苦労する子がいる。小学校の上靴はマジックテープなので、慣れていないのでは。運動着に着替えるのに時間がかかる生徒がいる。
- ・学力が急に落ち込む生徒がいる。特に、英語で戸惑いが見られる面がある。

**Dグループ** 司会：今川(小) 記録：高田(中)

◎学習指導に関わって

- ・ノートへの書き取りがきれいになった。(中1)
- ・平仮名、片仮名、漢字が苦手な子がいる。また、九九を暗唱していない子が何名かおり、反射的に答えられない。
- ・家庭学習も行えているが、もっと必要感、危機感を感じられれば…。「やらされている学習」から「自主的にやる学習」への転換が必要。学習のマネジメントやスケジューリングがもっとうまくできていけば…。
- ・小学校の段階で学習の意識付けをすることが大切 → 学習を将来の夢と関連付けて。目的意識をもたせる。楽しい授業、興味にある授業を通して。
- ・小学校の教師は優しいイメージ。教室環境の整備が優れている。

◎生活指導に関わって

- ・『LINE』によるトラブル(中1)。小学校でもトラブルが起こっている現状。→ NTTなどの企業を呼んで講演会などを開く → 小中連携としてできる? 小学校にも情報教育が必要。
- ・学校配付のプリントを親に見せることができない生徒がいる。
- ・保護者との連携は、小・中学校ともに良好。

## **Eグループ** 司会：上林(中) 記録：金田(小) 【特別支援学級担当グループ】

### ◎授業参観交流を通して

#### <中学校の先生方より>

- ・子どもから、「去年も来たよね」と声をかけてくれ、うれしかった。交流の良さを感じた。
- ・小学校での成長の様子を聞いたことが参考になった。

#### <小学校の先生方より>

- ・協力学級での様子を見たが、どの子もしっかりやっていた。

### ◎小・中の支援の仕組みについて

- ・中学校では、どんな仕組みで支援をしているのか？

→ 個別の進路相談でどの教科を支援するのかについて決める。

「知的」…基本的に5教科は特別支援学級で行う。希望があれば協力学級で行う。

「情緒」…①「知的」の診断あり、②病院・療育機関で支援が必要と判断された場合、③療育手帳を持っている、この3つのうち、どれか1つで高等養護学校への受検資格がある。

普通高校へ行くのであれば、協力学級で授業を受けて受検に備えるが、状況によって支援する。高等養護学校へ進学する場合は、基礎・基本の内容を個別で学習する。

- ・小学校では、週に1回自立活動の運動として、交流があるだけ。
- ・中学校は教科担任制なので、教科での支援となると限界がある。障害の種別の垣根なく支援している。来年度以降の体制については、現在検討中。

### ◎保護者との連携について

- ・児童の実態について、保護者への説明に困ることがある。中学校ではどのように情報提供しているのか？

→ 3年後及びその先の就労を本人や保護者がどう考えるのか。先まで見通しをもつと、選択肢が広がり、支援の仕方も変わる。高等養護学校には個別指導はない。みんなと一緒に何ができるかという視点で。高等養護学校、普通高校ともに本人・保護者が納得しないと続かない。実際に見に行くのが一番。10月に美深高等養護学校に行くので、小学校にも案内を出す。

### ◎その他

- ・学習が日常の生活に生かせることが必要。
- ・今後も台場小も含め交流することで、次年度の引き継ぎにもなる。